

上越地域における日本風景街道の取り組み ～様々な主体と協働した地域づくりを 目指して～

高村 直樹¹・工藤 桃子²・五十嵐 愁人³

高田河川国道事務所 調査第二課 (〒943-0843 新潟県上越市新南町3番56号)

上越地域の日本風景街道のルートである「日本の原風景『枝垂れ桜の咲く里への回り道』」の活動主体であるNPO法人徳合ふるさとの会は、道路協力団体・河川協力団体としての活動を軸に、道路だけでなく、河川・自治体・民間と協働した地域づくりを行っている。その取り組み事例について報告する。

キーワード 日本風景街道、シーニックバイウェイ、協働、地域づくり

1. はじめに

(1) 日本風景街道とは

日本風景街道とは、米国のシーニックバイウェイにヒントを得て検討が開始された取り組みで、地域の人々、NPO、企業、地方公共団体等多様な主体による協働のもと、景観、自然、歴史、文化など地域の魅力を「みち」でつなぎながら「訪れる人」と「迎える地域」の豊かな交流による魅力ある地域づくり、美しい景観づくりを促し、地域の活性化、観光の振興に寄与することを目指す国土交通省の取り組みである(図-1、図-2)。

米国では道を中心とした景観や自然環境の保全整備をして地域の観光振興、活性化を目指すシーニックバイウェイの考え方が広がり、住民、行政、NPOなどが一体となった沿道景観作りが行われている。日本風景街道は、「地域の資源」「活動主体(風景街道パートナーシップ)」「活動内容」「活動の場(中心となる道路等)」から構成されるもので、それらを総称して風景街道といい(図-1、図-2)、令和5年3月現在、全国で144のルートが登録されている。



図-1 風景街道を構成する要素

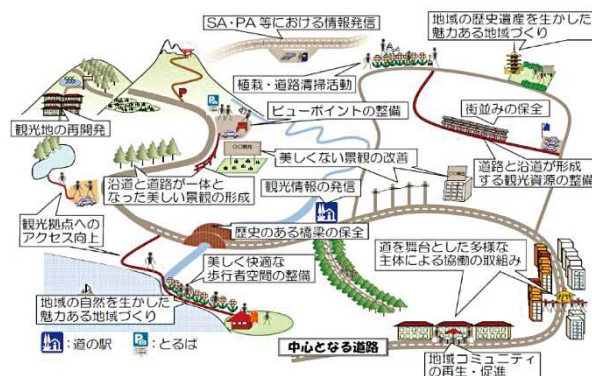


図-2 日本風景街道のイメージ

(2) 北陸ブロックの風景街道

これまで、平成19年4月20日に日本風景街道戦略会議(委員長:奥田碩日本経団連名誉会長)より提言された「日本風景街道の実現に向けて」を踏まえ、仕組みや枠組みの構築が図られ、同年9月10日より、地方ブロック毎に設置された「風景街道地方協議会」が随時風景街道の募集を受付、順次登録を行っていくこととなった。

その中で、「北陸風景街道協議会」は、北陸ブロック(新潟県・富山県・石川県)としての風景街道の登録申請受付や登録の審査、活動支援などを行っており、「北陸風景街道」として活動している。北陸風景街道には、令和5年3月現在、14のルートが登録されている。

(3) 上越地域の風景街道

北陸風景街道のうち、上越地域には2つのルートが登録されている(図-3)。

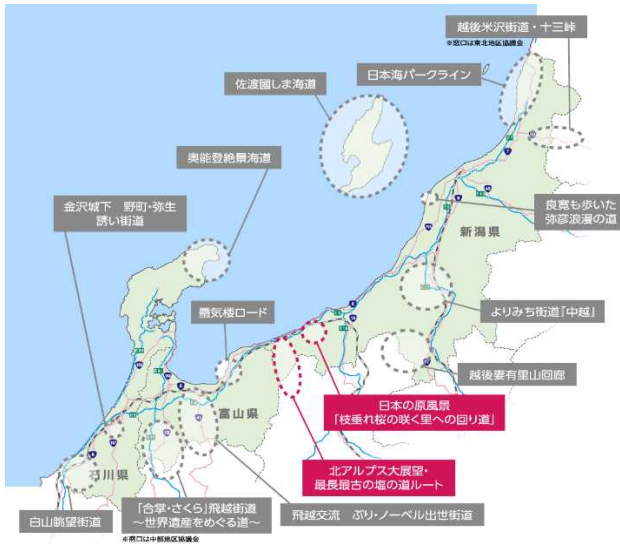


図-3 北陸風景街道と上越地域の活動ルートの位置写真

a) 北アルプス大展望・最長最古の塩の道ルート

新潟県糸魚川市と長野県松本市を結ぶ千国街道は「塩の道」として知られ、現在は国道148号、147号として、新潟県糸魚川市から長野県小谷村、白馬村、大町市へと続いている。「北アルプス大展望・最長最古の塩の道ルート」の活動主体である「アルプス塩の道交流会議」は、「塩の道」や日本列島を東西に分断するフォッサマグナがもたらす自然・風土・風習を活動の場として、日本人の生活文化の原点をあらためて学び、新たな魅力を発見・蓄積・発信する活動を進めている。

糸魚川地方では古くから塩作りが行われ、海産物とともに信州へ運ばれ、信州からは大豆、煙草、麻などがもたらされ、街道は大いに盛り上がった。越後の武将・上杉謙信が、今川・北条の塩止めで苦しむ仇敵の武田信玄に塩を送ったとされる逸話でも有名である。北アルプスの2,000m級の山々を頂とする谷々など、谷筋を這うように伸びる古道と集落が織りなす独特の風景と雄大な景色が楽しめる。



写真-1 糸魚川市でのハイキングイベント



写真-2 大町市でのハイキングイベント

b) 日本の原風景「枝垂れ桜の咲く里への回り道」

日本海に面した国道8号から2kmほど山手に回り道をするとなぎの徳合集落がある。「日本の原風景『枝垂れ桜の咲く里への回り道』」の活動主体である「徳合ふるさとの会」は、新潟県上越市の関川周辺から徳合集落・道の駅能生を活動の場として、桜の植樹やコスモス、芝桜の植栽、ハイキングイベントの開催、清掃活動など、先人が地域のために創った美しい原風景を、100年後の未来へとつなぐ活動を進めている。

徳合地域では、豊かな自然、戦国時代の城跡、棚田、茅葺きの古民家といったノスタルジックな日本の原風景が広がっている。春には樹齢80年の枝垂れ桜をはじめ、ルート沿道や一軒一軒の軒先に植えられたおよそ300本の枝垂れ桜が訪れる人を温かく迎えている(写真-3、写真-4)。

また、国道8号を経た新潟県上越市の関川では、地元の子も達と種をまいた100万本コスモスや菜の花など四季折々の美しい花々が河川敷を彩り、日本百名山の妙高山や関川、国道8号の関川大橋とあわせて道行く人の目を楽しませる(写真-5)。



写真-3 徳合地域の棚田



写真4 徳合地域のシンボルとなっている古民家



写真5 関川河川敷のコスモス

2. 風景街道の取り組みにおける課題と対策

(1) 取り組みにおける近年の課題

日本風景街道は平成19年の活動開始から16年が経ち、積極的に活動しているルートがある一方、活動が停滞しているルートもあり、様々な課題が生まれてきている。

a) 「日本風景街道」の認知度が低い

これまでのパートナーシップの日々の努力によって様々な成果があったが、依然として「日本風景街道」という施策自体の認知度が低く、活動の活性化に繋がりにくい状況にある。

b) 関係者間の発展に向けた議論が不足

パートナーシップを構成する個々の組織同士やパートナーシップ同士、パートナーシップと地方協議会など、様々な関係者間での議論が不足している。

c) 地元自治体との連携が不足

風景街道の活動には地元自治体との連携が不可欠であるが、地元自治体の活動団体との連携に対する意識が低いことや、地元自治体と活動団体が連携のあり方やメリットを理解できていないことが要因となり、連携ができていない状況がある。

d) 資金・人員体制が不足

風景街道の事務局はNPOや民間団体が担っていること

が多く、活動・運営などの財源がないため、活動の広がりを持たないなどが課題である。また、NPOなどのボランティアで成り立っており、パートナーシップの運営が厳しいため、新しい人材が入りにくく、高齢化が進んでいる。

(2) 課題と対策

課題解決に向けては、平成30年8月「日本風景街道の発展に向けての提言」（「日本風景街道」有識者懇談会）において、「情報の発信・共有」、「関連施策との連携」、「関係者の交流」、「道路協力団体制度の活用」、「支援体制の構築」などの項目でとりまとめ、関連施策を活用した取り組みやルート間の交流をさらに深めるとともに、官民の密接な連携のもとでそれを支援していく枠組みを再構築していくことが求められているところである。

3. 日本の原風景「枝垂れ桜の咲く里への回り道」

近年の活動について

(1) 活動の原点

上越地域の国道8号で結ぶ地域で活動している「日本の原風景『枝垂れ桜の咲く里への回り道』」の活動団体は、徳合ふるさとの会というNPO団体である。「もっと明るく住みたくなる」「住民が誇りを持てる地域に」と考え、道路のゴミ拾いや草刈り、樹木伐採など地域の環境改善活動を仲間同士で始めたのを活動の原点に、平成10年より植栽活動を始め、平成13年にNPO法人徳合ふるさとの会として設立された。地域に何が残せるかと考え、植樹によって枝垂れ桜の咲く美しい景観を持つ地域づくりを提案し、先人が地域のために汗を流してきたものを守り、100年後に向けた地域の景観づくりをしていきたいという想いから、「100年をかけて、飽きのこない商品をつくる」を合い言葉に、地域を枝垂れ桜を中心とした美しい景観で満たし、ここでしか見ることのできない価値を提供することを目標に掲げている。令和4年度には、関川河川敷へと活動エリアを拡大している（図-4）。



図4 エリアの拡大

(2) 近年の活動

徳合ふるさとの会でもこれまで述べてきた課題に直面しているが、その課題局面において、各種施策や地元自治体等と連携した取り組みを行ってきた。

a)道路協力団体への登録

徳合ふるさとの会は、平成13年からVSP（道路）として国道8号の美化活動を実施しており、その長年の活動状況から平成28年に全国で初となる道路協力団体の指定を受けた団体の一つとなる。道路協力団体として占用許可を受け、駐車帯に自動販売機設置し（写真-6）資金調達の一助となっている。また、本事例を参考に上越市内の協力企業でも自動販売機の委託を受け、資金調達に活用している。



写真-6 駐車帯に設置した自動販売機

b)補助金の活用

(一) 新潟県建設技術センターの「環境整備と野生動物との共生に関する事業」の補助金を活用し、令和3年度から3年計画で環境整備をしている。これまで、集落と山地間の不用木の伐採、下草刈り、用水路整備、桜の剪定、桜の植樹を実施している（写真-7）。環境整備にあたっては、長岡技術科学大学山本准教授（生物機能工学専攻）から、徳合地区の地形などを踏まえた効果的な鳥獣対策の助言を受けている。



写真-7 不用木の伐採と下草刈り

c)道の駅との連携

春の桜のイベントでは、昔ながらの風景を残している徳合地区は大きな駐車場がないため、道の駅能生と連携し、巡回周遊バスを運行している。その後、道の駅で徳

合地区特産品の販売も実施している。

また、徳合ふるさとの会で道の駅の緑化活動を請け負い、環境整備を実施している。令和元年度には、道の駅前面の国道8号沿いにおいて地元小学生等とシバザクラの植栽活動を展開している（写真-8）。



写真-8 道の駅との連携

d)地域のにぎわいの創出

徳合ふるさとの会は、リバーサイド夢物語として、平成18年から関川河川敷のVSP（河川）となり美化活動を行っており、平成26年度には河川協力団体にも登録された。河川敷では、地元小学校の児童・協賛企業と河川敷の美化活動やコスモスの種まきを実施している（写真-9）。花が咲く10月末頃～11月初めには、キッチンカーが出店し、たくさんの来訪者でにぎわい、令和4年の開花時期約2週間で延べ約1万人が来訪した（写真-10）。満開の時期には、地元小学校の児童によるコスモスコンサートを開催している（写真-9）。



写真-9 子ども達との活動（種まき、コンサート）



写真-10 関川河川敷でのにぎわいの様子

e)地域資源の再発見と関係機関との連携

令和4年7月から令和5年7月の1年かけて、地域資源のPR写真収集につなげるため、「季節を彩るフラワーロードフォトコンテスト」を実施した。実施に伴い後援企業を集め、新聞社・金融機関など、18企業・団体へ声かけし、様々な分野と関係をつくる事ができた。フォトコンテスト以外でも連携をお願いし、協力体制を構築している(図-5、表-1)。



図-5 フォトコンテストちらし

表-1 フォトコンテスト後援企業・団体

業種	企業・団体名
新聞社	新潟日报社、(株)上越タイムス社
小売業	無印良品 直江津、サントリービバレッジソリューション(株)
金融機関	上越信用金庫
交通関係	えちごトキめき鉄道(株)、新潟交通の旅くれよん
建設業 物流業	大和ハウス(株)新潟工場、高助合名会社、田中産業(株)、田辺工業(株)電力事業部、(一社)北陸地域づくり協会
道の駅	マリンドリーム能生
自治体	上越市、糸魚川市、上越地域振興局、糸魚川地域振興局、高田河川国道事務所

また、令和4年度には、後援企業・団体を対象に地域資源を巡るツアーを開催した。新潟日报社上越支社、えちごトキめき鉄道(株)、新潟県、高田河川国道事務所(以下、高田河国)、合わせて9名参加し、「各団体連携して地域全体を盛り上げていきたい」など、意見交換した(写真-11)。



写真-11 地域資源を巡るツアー

f)広報活動

令和4年に、損傷していたVSP看板の更新を行った。その際には、高田河国の河川管理課と協力し、徳合ふるさとの会のSNSのQRコードの他、風景街道のロゴマークを入れて更新し、河川敷に来訪する人へもPRを行っている。



写真-12 PR看板の作成

また、上越地域のルートのPR窓口として、高田河国HPに上越地域の北陸風景街道ポータルサイトを作成し広報活動のひとつとしている(写真-13)。

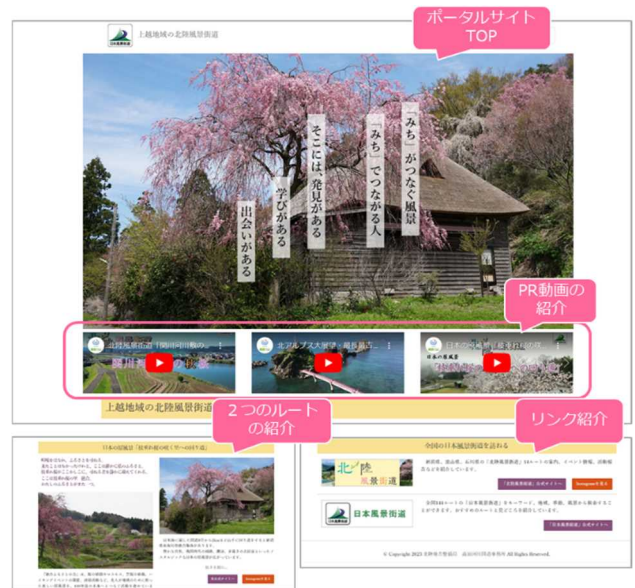


写真-13 ポータルサイトの作成

4. 取り組みから見る風景街道の今後の展開

本ルートは、徳合ふるさとの会を中心に企業や地域住民、さらに付近の小学生と協働して地域づくりを行っている。今後も大切にしていきたい古き良き日本の原風景や美しい花が咲く河川敷は高田河国だけでなく様々な方が関わり支えていることが分かった。初めは小さかった

コスモス畑は、今では100万本が咲き、多くの方が訪れる上越の観光名所の一つとなってきている。美しい景色を大切にすることで自然環境に親しみを持ってもらうだけでなく、不法投棄や景観が悪化することの防止にもつながっている。

課題解決に向けた対応として「日本風景街道の発展に向けての提言」で述べている「情報の発信・共有」，「関連施策との連携」，「関係者の交流」，「道路協力団体制度の活用」，「支援体制の構築」等は、本ルートでは様々な局面で自発的に取り組んできている内容である。結果として提言に行き着いているが、取り組み実施には関係者で試行錯誤し、紆余曲折あった結果、本ルートならではの解決策を導き出せているように思う。

紹介した本ルートの取り組みは、課題解決に向けてパ

ートナーシップが奮闘し、それに答えようと高田河国や自治体、協力企業が連携し、実施してきた成果である。おかげで関係者同士のつながりは強くなり、風景街道以外でも何でも相談できる関係性ができあがっている。風景街道の活動に正解はなく、このような関係性を構築し、今後も続けていくことが風景街道の活動＝地域づくりに求められていると思う。

謝辞： 本論文のとりまとめに際し、多大なご意見とご協力を賜りました関係自治体、関係企業等皆様には、ここに感謝申し上げます。